

「わくわく幼稚園」・・幼児教育の重要性を語る

6月30日(月)に所内研修として今年から配置された、島尻教育研究所の幼児教育担当指導主事 嶺井洋子指導主事を講師に幼児教育の理解を図ることをねらいとしての講話実施しました。

長きにわたり幼稚園教育に携わり、教頭としての立場も経験したことを活かした、体験談を交えながらの60分の講話は、幼児教育担当の指導主事としての熱き思いのこもったメッセージとなりました。



写真1 所内研修の様子

【講話の概要】

- 1 「幼稚園ってなあに～学校教育のはじまり～」 文部科学省
- 2 幼稚園教育の基本
 - (1) 環境を通して行う
 - (2) 主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活
 - (3) 一人一人の発達に応じた指導
- 3 指導計画の基本的な考え方
 - 教育課程→年間指導計画→期別指導計画→週・日案計画→評価・反省
- 4 週案について…全職員で作成、共通理解。「みんなで育てる」具体的に指導のポイントを書き込む
 - 一つの遊びに対する細かい配慮＝意図的な環境構成
 - 室内環境図、戸外(園庭)環境図…細かい書き込み。

教育研究員の感想

初めて知ったことは、年計をさらに具体化した「期別指導計画」があることです。季節などの周囲の環境の変化を考慮し、生活の流れを予測して計画されたものなそうので、環境を通した学びは細やかな計画なしにはできないのだと納得しました。

重要なキーワードは、「意図的な環境構成」と「援助」でした。資料の環境図に細かく書き込まれた教師の援助には、全体を見通し、個に寄り添う先生方のすごさを感じました。資料の写真も、嶺井主事の解説を聞くと見る視点も変わって園児の理解につながるのが分かりました。検証保育でさらに視野を広げたいです。(上原馨)

幼稚園教育は、意図的な環境構成と教師の援助が大事だということが分かりました。小学校でも教室環境を考えて、掲示物や棚などを置いていくけれど幼稚園はそれ以上に園児の実態や活動をふまえて、より細かい室内環境を構成していることがわかりました。資料の室内環境構成図を見ると、小学校でも参考になる部分もありました。

遊ぶことによって学んでいくということを聞いて、幼稚園では遊ぶことが大切だということを実感しました。小学校に入学してくる子ども達が幼稚園でどのような教育を受けてきたのかを知るとはとても大切な事だと感じました。改めて、幼稚園教育のことを知ろうと思いました。(下地こず恵)

幼児は、いろいろな遊びを通してさらにたくさんのことを学び、身につけていくことが分かりました。先生からの指示で動くのではなく、自分からやってみたいと思うことをさせていく。その学びの援助をするのが先生で、一人一人の幼児を理解し、一緒に遊びながら幼児の興味を広げたり深めたりして、さらに楽しめるようにしていく。すべてを手伝うのか、ヒントを与えるのか、自分たちで解決できるまで見守るのかなどを考えてかかわることが重要なんだと思いました。幼稚園と小学校のつながりを考えると、私ももっと幼稚園教育を学ぶ必要があるんだと感じました。(仲門学)

研究所に入所して、はじめて幼稚園のことについて勉強しました。一番驚いたのは、ただ遊んでいるのではなく、意図的な環境構成によって遊びを通して教育をしている点です。特に環境構成は奥が深いと思いました。こどもの遊びを予測して、援助したり、さりげない声かけで、自然な流れの中で遊びを広げ、深めていると思うと、心から幼稚園の先生はすごいと思いました。

幼稚園で庭園の一部に雑草を生やしているのは、バッタを集める意図があることを初めて知り、そんな細やかな意図的な環境構成を心がけているんだと感動しました。(横田純子)